

おもてなしの心得・40箇条

1. もてなす為に必要なとされる、作法を身に着けること。
2. 自らの身の丈に合わせた「おもてなし」をすること。
3. ふれあう前に、もてなす相手の個性や心を想い巡らすこと。
4. もてなす相手に合った環境を設えること。
5. わずかな相手の仕草から、心を察知すること。
6. 自らの自我や煩悩、自己顕示の衝動を制御すること。
7. 自他共に、不安や焦り、怒りなど心のストレスの源になることを取り除くこと。
8. 「自分の為より相手の為に」の意識を優先し、様々な感情や情緒をコントロールすること。
9. 応対意識、即ち先ず自らのことより相手を想い、思い遣る心を持つこと。
10. 礼節を重んじ、自然な気遣い、心遣いを何気なくすること。
11. 「一期一会」の心とその心を楽しんで頂く配慮を以って、人との触合いをすること。
12. 「和敬清寂」の心を以って人とふれあうこと。
13. 「守・破・離」の心とその修得を常に意識した言動をすること。
14. 物や人の本質を理解、認識し、それぞれを慈しみ思いやる心を持つこと。
15. 裏表のない心でお互いの心を通わせ合うこと。
16. 相手により良い、心豊かな経験や体験を齎すこと。
17. 知人や周りの人々の成長を喜ぶと共に自らの成長を喜び、知能や見識に溢れた人達との交流や会話を愉しみ、先人や偉人を尊敬し、それが出来る己を知りよこすこと。
18. 立場転換の心を以って、ふれあう相手の感性、感覚と言った心を尊重し、相手の心や経験を豊かにすべく誠心誠意応えること。
19. 心に余裕を持ち、焦りや、それを相手に悟られることのないようにすること。
20. 相手の不快さや不安を抑制し、一期一会の場を楽しめるように配慮すること。
21. 気遣いを表す「モノ」と「コト」以って、相手に接すること。
22. ふれあう相手に「モノ」と「コト」以って、無の心で接すること。
23. ふれあう相手に見返りとなる「モノ」や「コト」を望まず、求めないこと。
24. 風情を楽しみ味わえる侘び寂びの心とその心尽くしをすること。
25. 心にいつまでも残る余韻を与えられること。
26. 相手を敬い尊ぶ心を忘れずに人とふれあうこと。(心の通い合う挨拶)
27. 無の心以って、相手への想いをしつらえの行動をすること。
28. 何気なさ、さり気なさを五配りの言動で表し、伝えること。
29. 相手に意識させない自然であり無理のない心で立ち振る舞いをし、ふれあうこと。
30. 自らが奢(おご)らず、物事に拘りを持ち追求すること。
31. 相手の快適さ、心地良さ(居心地)を提供し、それぞれを追求する心を持つこと。
32. ゆとりを持ち、こちらの感情や心理状態を相手に悟られないようにする心を持つこと。
33. 誠心誠意の心で要望や希望を叶えようとする心を持つこと。
34. 親身になって相手を考え、凡事を徹底し、お世話する親切心を持つこと。
35. 相手の意識や心を読み、さりげなく気遣いサポートをすること。
36. 黒子の心で五感を総動員し、ふれあいをすること
37. 常々、先祖や物事に感謝する心を持ち、表すこと。
38. 洗練さ増す為に己磨きを繰り返し行うこと。
39. 苦情やクレームを自らの学びとする心を持つこと。
40. もてなす側、もてなされる側の人それぞれが周り人々へ気遣う心を持つこと。